【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	北　海　道

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	北海道枝幸町立枝幸中学校					
学　年	１　年	２　年	３　年	特殊学級	計	教 員 数
学級数	２	２	２	３	９	１９
児童数	７１	６１	５６	３	１９１	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

学ぶ心と力を高める学習活動の展開（全教科共通））
〔数学科〕　　確かな学力向上のための授業の創造

２．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

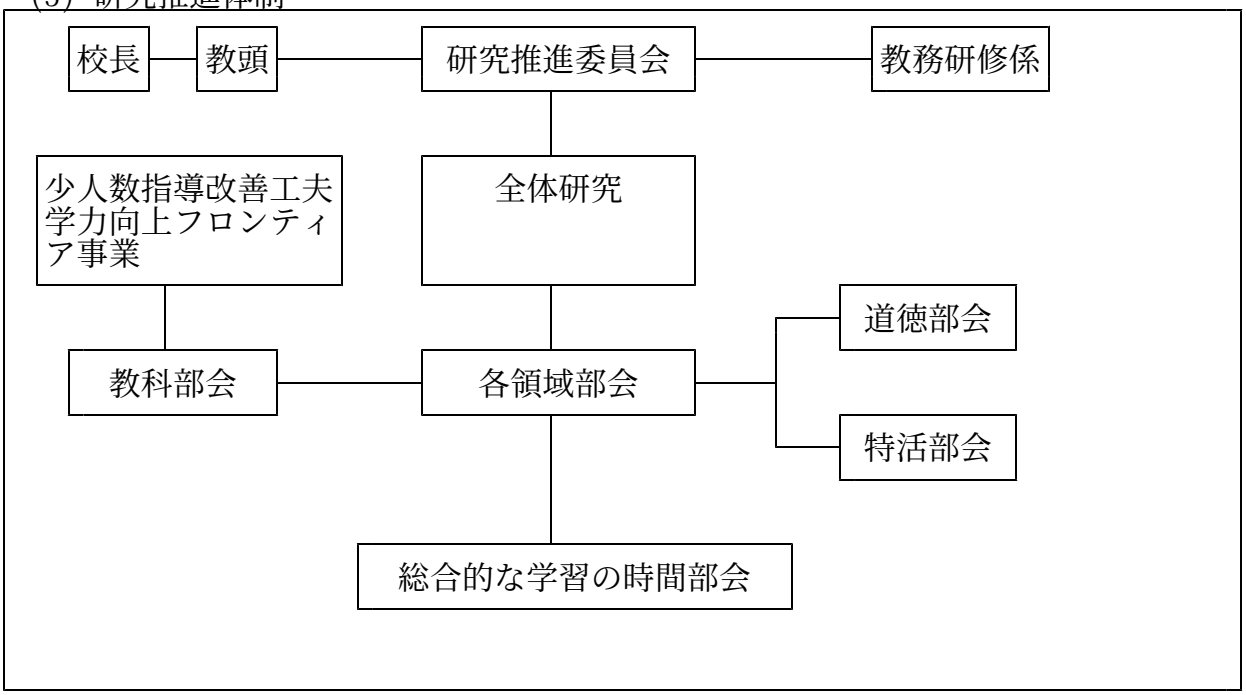
１学年数学
２学年数学
３学年数学
３学年選択数学

思考の過程、判断の仕方等の個人差が顕著にあり、基礎・基本の定着度の差も大きい教科、学年であるため。

(2) 年次計画

平成14年度	
平成15年度	テーマ　確かな学力向上のための授業の創造 ～数学に対する個々の理解の状況等の把握と研究方向の決定 研究の見通し 生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導 研究の内容・方法 ・情意面の調査研究を進め、生徒の実態を把握する。 ・生徒が進んで授業に参加、利用しやすい学習環境を整える。 ・生徒の側に立った授業を構築する。 ・ＴＴ指導・・・・支援の工夫、学力の向上、指導者の協力体制づくり ・少人数指導・・・習熟の程度や理解の状況に応じるための指導法の工夫 ３コース制　　（個人選択）
平成16年度	テーマ　確かな学力向上のための授業の創造 ～理解の状況等に応じた指導と研究の推進 研究の見通し 生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導 研究の内容・方法 ・意欲を喚起する教材開発に努めるとともに学習環境を整える。 ・指導と評価を一体化させ、指導法を工夫することでつまずきの解消を図る。 ・教育課程に研究成果を反映させ、改善充実を図る。 ・ＴＴ指導・・・・支援の工夫、学力の向上、指導者の協力体制づくり ・少人数指導・・・習熟の程度や理解の状況に応じるための指導法の工夫 ３コース制　　（個人選択））

(3) 研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

（１）数学に関する意識調査の結果

現　状

１　数学が好き、少し好きという生徒が９０％以上いる。

２　新しいことが知りたい､おもしろいからするという生徒が４０％いる。

３　成績をあげるために勉強する生徒が８０％以上いる。

４　１０％の生徒は数学が嫌いである。

生徒の心

１　将来自分にとって必要なものと自覚している。

２　難しいことにチャレンジしたいと考えている。

今後の指導方法

１　生徒の向上心を大切にし、関心・意欲を高める授業を構築する。

２　ＴＴ、少人数指導により、個性を生かし、授業内容の理解力アップを図る。

３　この指導法を他教科に広げるよう校内研究体制を整える。

（２）基礎学力調査結果　事例１年（正の数・負の数、文字式、１次方程式）

現　状

１　複雑な式の加減・乗除の理解が不十分であり、定着に支障をきたしている。

２　小数、分数を含む計算式、方程式に特に困難さがあり、定着が３０％以下である。

今後の手立て

１　生徒のやる気を継続させる指導の展開を図る。

２　予想や直感を大切に、練り合う中で発表、表現できる時間を保証して一人一人を生かす。

３　ＴＴ、少人数指導を通して個別学習を進め、基礎・基本の確実な定着を図る。

（３）授業実践例

基本的な流れ

一斉指導　⇒　課題選択　⇒補充コース　⇒基礎コース　⇒応用コース　⇒評価

ＴＴ指導　　少人数指導

※上記の順番が入れ替わるときもある。

コース選択

個人自由選択とし、理解に支障をきたすときは変更してもよい。

一斉指導・ＴＴ指導

1　学ぶ意欲を大切にする授業設計をする。
2　生徒の学習状況に応じたきめ細かな支援をする。
3　学習を評価し、生徒の個性の伸長を図る。
4　指導の協力体制づくりをする。

コースに応じた指導・少人数指導

1　基礎・基本の定着の差、学び方に応じた授業を構築する。
2　課題を工夫し、充実感・満足感を与える授業を展開する。

（4）まとめ

1　「できるようになりたい」という学習に対するあこがれや意欲の高さが感じられた。
2　全体的に小数・分数の計算力が落ちているなど、指導を要するところが解明できた。
3　ＴＴ、少人数指導で生徒が成就感・達成感を実感する取組ができた。

２．今後の課題

1　調査等で生徒の学習に対する姿勢、考え方の傾向をとらえ、より一層生徒理解を深める必要がある。
2　生徒一人一人の多様な考えに対応するため、指導過程の工夫改善、教材教具の開発、学習環境の整備等に努める必要がある。
3　ＴＴ、少人数における効果的な指導法の工夫改善に努める必要がある。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

1　学力テストを通して生徒の実態を把握し、指導に生かしている。
　１年　３回（4／10、8／28、2／6）
　２年　３回（4／10、8／28、2／6）
　３年　８回（4／10、6／19、8／28、9／10、10／8、11／13、12／10、2／6）
2　生徒のよさや可能性、自己評価、各種テスト、観点別評価、情意面を総合的にとらえ、評価・評定している。
3　コミュニケーション力の向上と基礎・基本の確実な定着をめざして生徒指導の機能を生かした指導について工夫改善を図っている。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1　学校だより、参観日、ＰＴＡ活動等でＰＲする。小中交流会・中高交流会など異校種間の交流を通して研究成果を普及する取組を行う。
2　フロンティア指定道北７校で研究協議し、指導方法の工夫改善に努めている。
3　少人数指導を中心に、次年度は公開研究会を開催し、多くの学校に参加を呼びかける予定である。（Ｈ１７年２月開催予定）

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　☐１４年度からの継続校

【学校規模】　☐3学級以下　☐4～6学級
☑7～9学級　☐１０～１２学級
☐１３～１５学級　☐１６学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導
☐その他

【研究教科）　☐国語　☐社会　☑数学　☐理科
☐外国語　☐音楽　☐美術　☐技術・家庭
☐保健体育　☐その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　☐無